

ホットケーキ求めて幾千里



そういやピアノを覚えてくれたマギー司郎さんは、池袋から歩いて行くと言ってたっけ。夜が楽しい喫茶店・伯爵の横が文化通ってのも凄いいけど、その奥の奥、バーというより居酒屋みたいなケニースが閉店し、もうこの通りに僕の文化は無いと、そして平和とは思えぬ平和通りに出て、真っ直ぐ進み川越街道を渡れば、豊島区最強の住宅密集地・池袋本町へと突入さ。



でも銭湯に煎餅屋、年季の入ったパーマ屋に富士塚を備えた水川神社と、緩やかな風情が街歩き人を微笑ませる。イカす文房具屋はどうに閉店したけど、素敵な木戸が僕のために残っている。水たま書店にやってくる猫をからかっていると、お目当てのホットケーキがどどんと遠のくぞと、自分に言い聞かせて。山手通りを何とかが越えて、うろろすればほほ見つかると喫茶ピアノで、「あれ、太った?」

数年振りなのにひとつも変わらぬいマスターに笑われ、幸せな匂いに包まれて二十分、想定外に膨らんだ濃密なスコーンの如き真ん丸ホットケーキが、太ってしまった僕の前にやって来た。



高野金次郎商店

親切第一 平成29年4月号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-2

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.boc.jp/

勝手にお気に入り5

入館すると何故かすぐトイレに行きたくなる美術館博物館ベスト5

- ・ 東京国立博物館平成館
 - ・ 出光美術館
 - ・ 三井記念美術館
 - ・ 松濤美術館
 - ・ 東京都写真美術館
- つまりトイレの居心地が良いという点じゃないかと思うわけですよ、へへ。

銀の輔銀座千枚

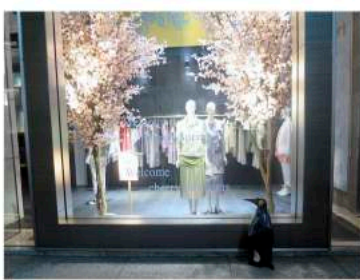
銀座の春は遅くて早いな。この街唯一の桜並木、銀座桜通りは八重桜。上野や飛鳥山辺りが満開だから慌てて出掛けると、せくせんまだで、蕾もいとこだったりするよ。

だけどショーウィンドウはね、もうとくに春→重ね着大会には少し寒そうにさえ見える軽やかな服が並んでる。きつと店員さんも春のファッションに身を包んでるんだらうね。

夜の銀座を歩いたんだ。街行く人が減って視界に入りにくくなる。逆にウィンドウの春を堪能できるんじゃないかと思つてさ。パレ用品店には、まるで空を飛びそうな純白のチュチュが舞っていた。梅の花に驚か止まっていた。クラシッくな水

着を着込んだお兄さんが並んでた。桜並木の代わりに、満開のウィンドウもあったよ。

路地の入り口、鮮やかな緑の洋服が、どうよ私ってポーズを決めて立っている。細長い隙間で空を浮か立っている。通りに出たらクラフ街、夜の蝶が舞う春爛漫な夜の銀座だったんだ。



東京三題噺・暁斎とフルーツポンチと椅子

ポップな展示と解説で見事に渋谷系美術展を見せたザ・ミュージアムが、古典的な手法で暁斎を披露したのは、展示に凝らすとも暁斎がファンキーだからだかもね。オーソドックスな浮世絵も様式美ある狩野派も、白隠にも通じそうな仏画やら、中華風から西洋絵画風、なんでも出落ちャウ。だから全てがパロディのように見えるんだ。特に今回は肉筆画が多くて、師匠は国芳だけじゃなくて鳩つても分かって、面白いぞよ。特に百鬼夜行と日記は爆笑もの。ゆるキャラ多数で、これが一人のコレクターの持ち物って..。

このまま府中市美術館で国芳に会えば完璧だけど、こないだ須田町交差点の方



惣跡地がビジネスホテルになったのを見て愕然、フルーツポンチが旨かったな、でも僕の中では本店より銀座松坂屋支店のポンチだなあと呟いたら、元方惣の人々が出したフルフルって店から直々にあの味に近いシロップが完成したって話を聞いて、こりゃ不忠だが府中より赤坂でって、再開発喧しい渋谷から宮益坂を登って青山通りを歩き出したわけ。

渋谷から赤坂なんざちよろいと思っただけど、中村書店で引っかけり、異書店で引っかけり、山陽堂じゃあみすず書房の写真展してるわで、リュックがどんどん重くなる。根津美術館の誘惑にも負けそうになっただけど、目を瞑って左折、青山墓地を突っ切って乃木神社を下り、永六輔さんのいないTBSを横目に氷川公園を通ってお城みたいなホテルの脇を回った裏っ手に、目指すフルフルを発見。

「フルーツポンチ 下さいな」



「フルーツポンチ 下さいな」
 バウハウスの伝統に触れた気分は、
 松坂屋店と違って背の低いグラスに、芸術品の如きカットフルーツが満開だ。赤ワインで漬けたという自家製ブルーンも絶品だけど、柔らかなピンク色のシロップに、昔と同じナタテココが入ってたのには、グツときたね。ホットケーキは次回のお楽しみ。
 暁斎で目と頭を、フルフルで味覚と思いを幸せにしたら、足腰も良い目に逢わせたいね。じゃあマルセル・ブローイヤーの椅子はいかが、つて訳で、大好きな東京国立近代美術館ですわ。物々しい永田町村、樞の中の議事堂を見て、国立劇場から平蔵門、英国大使館から代官町通り、ランニングマンを避けて土手に登り、桜はまだな千鳥ヶ淵を眺めながら、時間がないので工芸館は諦めて、そのまま近代美術館へ。

パイプと突っ張り生地を組み合わせた彼の代表作、ワシリーチェアは、バウハウスの誇り。ただシンプルなだけじゃない、機能美と不思議な落ち着きが漂うんだ。残念ながら会場内の椅子も家具も触れないけど、入り口にある一脚だけはOK。念願のワシリーチェアに座れたのだ。どうも僕の足腰、バウハウスの伝統に触れた気分は、

「Improvement for good」
 Marcel Breuer's Furniture
 渋谷く赤坂経由く竹橋は、僕の五感全てを笑顔にする仕掛けがあった。





プライドと意地だけ交差の至近駅 梅里



育つほど頭を垂れるガードかな



関屋牛田の旅



神様に拜めば開くか踏切も



頭越し通らぬうちに突っ走る

高級句誌
俳人同様
Haijin Doyo
三朝庵梅里・筆
SAN CHO AN BAI RI

何の因果か悪戯か、東武電車の牛田駅、京成電車の関屋駅、一緒にすれば良いものを、通り挟んで差向い、四畳半なら乙だけど、改札出たらすぐ改札で、愛想も小想も尽き果てる、浅草始発の伊勢崎線、吾妻橋をは横に見て大川渡る本寸法、鼻高々に言うならば、天下に轟く山手線、西郷さんのお膝元、上野ス

タート京成本線、互いに負けぬ負けられぬ、その両線が挟みたる、曙町と柳原、車行き交う墨堤通り、京成側に足立局、東武側にはマンションそびえ、地域の名勝千草園、二駅の間は商店街、というよりは飲み屋街、駅の周囲も居酒屋集結、踏切そばにも並んで、実は飲み助多いのか？次に来るなら夕まくれ、

帰りは二駅どちらでも、有難いのか火に油、ゆるり奥へと進むなら、倉庫住宅町工場、トタンの赤は塗装か錆か、妙な空き地は元々か、大小ガードも取り揃え、泣けてくるよな食堂備え、二線の隙間は聖域か、目の前荒川迫る頃、見目躍しき交差点、俺が上たと胸を張る、京成暫し待たれよと、踏切脇のお稻荷様の、玉垣真紅に東武と書かれ、痛み分けたる関屋と牛田。

豚骨もこまでは来ぬラーメン保護区

南大塚萬重宝

ミナミオオツカヨロズ

チョウホウ

北口番外編

東京大塚カウンター異聞
K'sバーの人々

「くすりの福太郎と隣のマックが閉店なんだけど、あのビル、いよいよ壊しちゃうのかなあ?」「大塚ビル、このあたりで唯一の戦前の建物なんだけどね」「老兵は去るのみ…」「凄いや言葉知ってるね、ユキちゃん」「で、オジサンはいいつ去るの?」

僕は思わず吹き出した。この伍ビール片手の女の子と鐘ヶ淵さんのやり取りは、殆ど漫才だ。それにどうみても僕と話してるより楽しそうだし。「ユキちゃんが来ると、いっつもこうなんですよ」と笑う鐘ヶ淵さんによると、文京高校の生徒時代からの古い常連

のひとりだという。「失礼ねっ。アタシ、全然古くないってばー!」「だって数学が嫌いだってサボって最初にうちに来たのは確か…」「コラコラっ、数えない数えない。ほんの数年前ですから」。

消滅しないまでも大塚ビルには大きな変化が起きていることは確実だな。僕が知ってるだけでも、くすりの福太郎の前はあおい書店、その前は住友銀行、更にその前となると、僕の記憶は相当薄れるが、松菱ストアというデパートがあったらしい。元々はかの日本橋白木屋の支店として建てられた、建築的に見るべき物がない大塚には不似合いなほど由緒ある物件なのだ。

「アナタは大塚ビルとは関わりないんですか?」「時々ガラス修理に行くくらいです。床が昔の学校みたいに木だったり、妙に天井が高かったり、普通のオフィスビルとは全く違ふなって思います。に真鍮のノブが付いた木製のガッチリしたドアが印象的でした」「そういう風景が良い思い出になるんですよ、この

街の歴史としてね」「はあ、そういうものですかね。こういう話をする時の鐘ヶ淵さんは、妙に嬉しそう。「そんなことより、マックが無くなっちゃうんだよ、どうしてくれるの!」と叫ぶユキちゃんを何とかして欲しい。

「こんにちわ、トシさん」と言いながら、新たなお客さんが入ってきた。「やあキミさん、今日はやけに早いですね」「いっつもよりリハビリが早かったのよ。シヨッピングカートを押しながら入ってきたキミさんは、七十年代半ばという感じのおばちゃん。腰が曲がってるから老けて見えるけど、案外もつと若いかも知れない。「いっつも昆布茶でいいの?」「おせんべは要らないよ、お茶受けは持ってきたから」とカートの中をゴソゴソかき回し、「はい、チョコとビスケット」、おばちゃんがカウンターに乗せたものを見て、僕はヒックリした。

てきたのよ。仕方なく、ですか…。でもこのビスケットはお気に入りなのよ」と言っ

倒され、そればかりか帰ろうとしない自分に…。「コーヒー苦手なら、違う飲み物もありですよ」とメニューを渡された。コーヒー、紅茶、牛乳、日本茶、ジュース…、どこにもアルコールらしき名前は載っていない。ごく普通の喫茶店メニューだ。その一番下の但し書きが素敵だった。「お代わり自由、持ち込み自由注文せずに帰るのも自由」。ハンドドリップで淹れる深煎りコーヒーの良い匂いがしてきた。目の前には高級チョコとクッキー(ビスケットじゃないから)を載せたティッシュって、子供のオヤツだな。

結局この店を出たのは夕方だった。妙な充実感と懐かしさを反芻しながら、僕は仕事場に帰ってきたのだった。

編集後記のようなもの

銀座ソニービルが大団円を迎えます。各階を独立させ、階下の風景が視界に入るという螺旋形にフロアを設置した愉快な設計と、地下のドレミファ階段の遊び感覚は、あの頃の会社イメージを

見事に具現化してました。暫くは広場ですが、次に作るであろうビルに、その気概は盛り込めるでしょうか?★配布協力感謝:千駄木古書屋ほうとう、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社。浅草・珈琲アロマ。